

新潟市都市計画基本方針 — 都市計画マスタープラン —

市の都市計画の基本的な方針として、平成20年7月に策定しました。

●めざす都市のすがた

田園に包まれた多核連携型都市
—新潟らしいコンパクトなまちづくり—

「田園・自然」に囲まれたまち（市街地）が、まちなかを中心としたまとまりのある（コンパクトな）まちを形成し区（生活圏）の自立性を高めることと、それぞれの区の連携を高めることにより、様々な個性と魅力をもつ連合体としての新潟市を目指します。

●都市全体の構造

都市全体の構造を、以下の3つの要素から考えます。

- 市街地形態の維持と田園・自然の保全（面の構造）
- 都市及び地域の拠点の育成（点の構造）
- 地域の拠点間の連携（線の構造）

平成29年3月には、新潟市立地適正化計画を策定し、まちなかに望まれる都市機能や良好な居住環境の形成に向け、適正な土地利用を緩やかに誘導するための取組方針が示されています。

図 都市構造概念図



(都市計画課)

新潟らしい景観形成

都市の魅力の一つとして、潤いややすらぎのある快適な都市環境が求められています。美しく個性的で魅力あるまちづくりを目指し、新潟らしい景観を「まもり、そだて、つくり、つたえる」ため、景観法に基づく「新潟市景観計画」と「新潟市景観条例」や、屋外広告物法に基づく「新潟市屋外広告物条例」を定め、総合的・計画的に景観形成を推進しています。また、市内各地域においては、それぞれの歴史と文化を活かした「修景」や「きめ細かなルール作り」を行うことによって賑わいと活力あるまちづくりを進めます。



〔本市を代表する景観 ばんだいばし しののがわ〕



〔歴史的まちなみが残るふるまちながい〕

まちなかのリニューアル

—地域の魅力を活かした、暮らしやすくにぎわいあふれるまちなか再生を支援—

各地域の市街地中心部を“まちなか”と位置付け、地域の魅力を活かした、暮らしやすくにぎわいあふれるまちなかの再生を目指し、市民が主体的に行うまちづくり活動に対し支援を行っています。また、政令市の顔である中心市街地の活性化に向け、土地の高度利用や都心居住の促進、広場や緑地等の公開空地の整備といった良好な市街地形成を図り、まちなか再生につながる民間の建築活動に対し支援を行っています。

【寄居町地区 まちなか再生建築物等整備事業】



既成中心市街地である古町周辺地区に建築された築40年余りを経過した老朽マンションを建替え、優良住宅による都心居住の促進と公開空地による周辺環境の改善を図りました。

【新潟駅南口第二地区 第一種市街地再開発事業】



新潟市の陸の玄関口である新潟駅の南口において、広域交通拠点周辺地区としての立地条件を活かし、都心居住を目的とした住宅等を中心とする施設計画により事業を進めました。

鳥屋野潟南部開発計画

—水と緑に恵まれた自然・優れたアクセス性鳥屋野潟南部は都市のアメニティゾーン—

「鳥屋野潟南部開発計画」は、新潟市内にあって豊かな自然を残す鳥屋野潟に隣接するとともに、高速交通網の結節点に位置する鳥屋野潟南部地区約270haにおいて、環日本海地域の拠点にふさわしい環境の優れたアメニティ空間の創出、新しい都市機能の導入を行うもので、民間活力の導入を図りながら、県・市・亀田郷土地改良区の三者で整備を推進しています。

新潟市民病院



平成19年11月に、新潟市民病院が開院し、その周辺において、土地区画整理事業による基盤整備が行われ、病院関連施設の立地が進んでいます。(ウェルネスゾーン)

消防局・中央消防署



平成27年12月に、消防局・中央消防署の新庁舎が完成しました。(ウェルネスゾーン)

HARD OFF ECOスタジアム新潟



平成21年6月に「HARD OFF ECOスタジアム新潟」が完成し、プロ野球公式戦も開催されています。(総合スポーツゾーン)

新潟アサヒアレックスアイスアリーナ

平成26年2月に、フィギュアスケートやカーリングなど氷上スポーツが年中無休で楽しめる「新潟アサヒアレックスアイスアリーナ」がオープンしました。(ウェルネスゾーン)

いくとぴあ食花

平成26年6月に、食育・花育センターやこども創造センターが立地する「いくとぴあ食花」がグランドオープンしました。(国際文化・教育ゾーン)

長潟南土地区画整理事業

平成23年12月に開始した区画整理事業は、平成27年9月に換地処分が完了しました。(住居ゾーン)

鳥屋野潟南部地区 A=270ha

鳥屋野潟南部地区全景

(まちづくり推進課)

快適に移動できる交通利便都市を目指して

●新潟市がめざす公共交通ネットワーク

田園に包まれた多核連携型都市を目指し、新潟らしいコンパクトなまちづくりを推進するため、交通体系の充実により地域間連携を強化するとともに、地域のニーズや人の移動特性等を考慮した公共交通の利用環境整備に取り組んでいます。



- 【凡例】
- 基幹公共交通軸
 - ⇄ 都心アクセス
 - 地域内の生活交通
 - 鉄道 (JR)
 - ⋯ 高速バス路線
 - - - フィーダー交通
 - ⋯ 骨格幹線バス
 - P パークアンドライド 駐車場

公共交通施策展開の三つの視点

都心アクセスの強化

各地域から都心部（都心及び都心周辺部）方向へ向かう既存のバス路線や鉄道について、運行便数増加や待合空間の整備等の利便性向上を図ることで、より便利で快適な交通環境を目指します。

生活交通の確保維持・強化

各地域では生活関連施設や主要バス停、拠点駅に接続する公共交通を地域の需要に応じて運行することにより、日常生活の足を確保し、地域内の移動を便利にします。

都心部での移動円滑化

環状型の基幹公共交通軸を形成するとともに、乗り換え拠点（交通結節点）や鉄道への接続を充実させることにより、まちなかを快適に移動できる公共交通体系を構築します。

具体的な
手法として

新バスシステム

～持続可能な公共交通体系の構築～

新たな交通システム(BRT)の導入+全市的なバス路線の再編

●新バスシステムの概要

持続可能なまちづくりの実現に向けて

まちなかにふさわしい質の高いサービスを提供するBRT（Bus Rapid Transit）とバス路線再編による「新バスシステム」を事業者とともに進め、持続可能な公共交通体系の構築を目指します。



新バスシステム開業による効果

新バスシステム開業前のバス利用者数は10年間で約4割も減少を続けてきましたが、平成27年9月の開業以降、郊外路線の便数を増やしたことなどにより、開業前後の1年間の比較において約0.8%増加し、バス利用者数の減少に歯止めがかかるなど、持続可能な公共交通体系の構築に向けた土台が出来上がりつつあります。

●公共交通施策の主な取り組み

都心軸でのBRTの導入

新潟駅前～青山間において、連節バス4台と一般バスを組み合わせで運行しています。今後も「基幹公共交通軸」の整備に向け段階的に取り組みます。



〔連節バス：愛称「ツインくる」〕

乗り換え拠点（交通結節点）の整備

上屋や防風壁を設置し、移動距離を極力少なくするなど、利用者の負担を軽減しています。



〔市役所ターミナル〕

都心アクセス・郊外線の強化

都心部方向へ向かう既存のバス路線の増便やパークアンドライドを推進することで利便性向上を図ります。



〔路線バス〕

地域内の生活交通の充実

生活関連施設や主要バス停、拠点駅へと接続する公共交通を地域の需要に応じて運行することで、地域内の移動を便利にします。



〔区バス〕

〔住民バス〕

（都市交通政策課・新交通推進課）

日本海交流都市の拠点づくり

●新潟港利用活性化事業

国際拠点港湾である新潟港の拠点性を一層高めるため、外貨コンテナ貨物取扱量の増加を図ります。

<主な事業>

- ・輸出コンテナ貨物の荷主支援
- ・ポートセールス



●新潟空港整備事業

国管理空港である新潟空港について、滑走路の耐震化や改良、照明工事などにかかる費用を国と地方で負担しています。

また航空機騒音などに対する空港周辺環境対策事業も実施し、生活環境の改善を図っています。

<主な事業>

- ・新潟空港整備事業費負担
- ・住宅騒音防止対策事業
- ・電気料及び防音サッシ修理費助成事業

●万代島にぎわい空間の創造事業

「みなとまち新潟」を象徴する、活力と魅力があふれる「港空間」を創出し、交流人口の拡大を図ります。

<これまでの動き>

- ・平成22年度、旧魚市場跡地に市民市場「ピアBandai」がオープン

<主な事業>

- ・万代島旧水揚場跡地（ピアBandai向かい）の多目的広場整備
- ・開港150周年に向けた市民主導のにぎわいづくりの促進



(港湾空港課)

